

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173501248		
法人名	医療法人社団千寿会		
事業所名	高齢者グループホーム プラタナス三愛(西館)		
所在地	登別市中登別町141番地1号		
自己評価作成日	平成26年10月10日	評価結果市町村受理日	平成26年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の基本理念をもとに、スタッフがユニット理念を創り実施している。一人一人の価値観やこだわりを大事にしケアを実践にあたっている。また、入居者一人ひとりやり遂げたい事は何かを本人から話を聴くことを大切に対応を行っている。総合施設長がグループホーム協会の幹事を務めている為、外部での研修などもあり、参加することで他事業所との交流なども行っている。解放感があり明るい元気なスタッフが多い笑いの絶えない事業所です。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kanierue&JiryosyoCd=0173501248-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成 26 年 11 月 20 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、医療法人を母体とした医療と介護の複合サービスの一環として、地域に根ざした高齢者ケアを目指し、平成17年に開設し10年目を迎えています。登別駅から車で5分程に位置し、緑豊かな環境の中で、利用者は四季折々の自然に親しみながらゆったりと過ごしています。ホームの外観は、とんがり帽子の塔が印象的で、屋内は広く、明るく、衛生的で、温かみを感じるホームです。積極性と指導力のある施設長の下、職員間のチームワークは良好で、連携の取れたケアサービスが行われています。プラタナス三愛の基本理念に加え、東館・西館毎にも理念を作り上げ、更に職員個々に目標を抱けて、日々ケアの実践に取り組んでいます。何よりも利用者の思いを大切に、寄り添う姿勢でケアに努めており、利用者は明るく穏やかに過ごしています。運営母体である三愛病院が隣接しており、日常の健康管理や緊急時などの対応も充実し、利用者、家族の安心に繋がっています。職員は常に笑顔で利用者に接し、日々笑いのある生活を目指したケアサービスに取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果として自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 插入している (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	<input type="radio"/>
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	<input type="radio"/>
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	皆で作った理念を共有し、現場で何か迷いが有れば、理念に戻り共有し、実戦に繋げている。	地域密着型サービスのホームとして掲げた基本理念を基に、ユニット毎にも全職員で話し合い理念を作り上げています。更に、職員個々にケアサービスの向上を目指して目標を掲げ、それぞれの理念を掲示し意識付けに努めています。	ホームに関わる全職員の思いを一つにして作り上げた各理念を改めて全職員に示し、共有し、常に意思統一を図りながら、理念がケアに反映されているか、職員間で常に話し合いの機会を持ち確認する事を期待します。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	何か市でのイベントなど、利用者様と一緒に参加している。	町内会に加入し、地域行事にも積極的に参加しています。登別市内で開催されるお祭りにも出かけています。協力医療機関の三愛病院主催の夏祭りや盆踊りに参加したり、ホーム主催の夏祭りや忘年会にも地域の方々に参加呼びかけを行い、交流に努めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族や近隣の人達の話しを都度、聞き、相談にのっている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の場で登別市の情報を得、事業所の状況報告し、今後のサービスに活かしている。	運営推進会議は市職員や地域包括支援センター職員、民生委員、老人会役員、消防署員、警察署員、家族等の参加を得て、2ヵ月毎に開催しています。ホームの運営や利用者の状況、活動報告、外部評価結果報告などが協議され、サービスの向上に繋がっています。	運営推進会議は、地域の理解と支援を得ながら、利用者が快適に暮らす為の会議で有る事を家族に理解して頂き、より多くの家族参加を促す取り組みに期待します。魅力ある議題の提供や日程の調整など、家族が参加し易い環境作りを期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設長が主に市役所に出向いて連絡をとっている。運営推進会議でも、市町村からの情報をもらい、協力関係を築いている。	施設長は介護認定審査会を始め、ケア連絡会の代表を努めるなど、行政との関わりが深く、担当者とは常にホームの実情やケアサービスの取り組みについて相談や情報交換を行い協力関係を築いています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に意識をし、考えながら身体拘束にならないケアを行っている。	身体拘束防止に関するマニュアルを整備し、ミーティングなどで、身体拘束をしないケアについて話し合い、周知徹底に努めています。外部研修参加職員は報告書を作成し、情報を共有しています。不適切な行為が見受けられた場合には、管理者は職員に指導を行い、防止に努めています。玄関は夜間のみ施錠しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待のない事業所にする為、何か気になる事が有れば、スタッフが声を出し、皆で考える機会を作っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の内容は大まかに知っているが、利用者様で使っている方がいなく、内容的にしっかりと理解は出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に説明し、解らない所は後から質問してもらい、契約を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に、利用者様、家族の要望を聞き、出来る限りの事はしている。	家族の来訪時には積極的に声をかけ、話し易い雰囲気作りに努め、意見や要望を引き出し、介護計画や運営に反映させています。遠方の家族には、電話で利用者の状況を報告し安心に繋げています。毎月発行の「家族通信」にも、利用者個々の写真を添付し、一言コメントを載せて暮らしぶりを伝え、家族に喜ばれています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	目標設定時の面接で、話し合う機会は設けて頂いている。が、年間を通して少ない様に感じる。	各ユニットの毎月のミーティング時に、職員は利用者のケアに関する提案や業務上の要望などについて、管理者と職員の間で意見交換が行われ、運営に反映させています。週1度、施設長は管理者から報告を受けています。人事考課制度を設け、施設長との個人面談が年1度行われ、職員個々の目標を確認した上で、達成に向けての支援に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度により個々に目標が達成できるよう努めている。休憩時間等もスタッフ同士声を掛けフロアにスタッフがいないならないよう、時間差で休憩を取るなど行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、勉強する機会は提供してくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年数回は同業者合同の勉強会を設けている。サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	帰りたい気持ちは初めは、誰でも有るが、その都度、傾聴し、本人がここでの生活に少しでも早く馴染める様、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	信頼関係を作るには、最初の面談が大切であり、不安な事、要望に耳を傾けながら話易い関係を作って行く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話しや、状況を見て、今現在、必要としている支援は何かを考え、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護される立場ではなく、共に、ホームで生活して行く一員として、仲間として生活している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の思いを大切にし、家族と共に本人を支えて行く関係で築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望が有る時、電話をかけており、関係が途切れない様に行っている。	友人、知人の訪問時にはもてなし歓迎しています。利用者の自宅近くまでドライブし、馴染みの店での買い物や、馴染みの美容室の利用などを支援しています。地元温泉にも家族と一緒に出かけるなど、人や場所との関係継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関係が途切れないよう、支援に努めている	孤立しない様に、利用者様同士が関わり合い、支え合える様な支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されるとご家族も来られなくなる為、関係が断ち切れてしまう。			
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩に行きたい、買い物に行きたいなど、希望があれば出来る限り応える様にしている。	センター方式を活用しながら、職員は日々の関わりから触れ合う機会を多く持ち、利用者の思いや意向を汲み取り把握しています。朝夕の申し送り職員は情報を共有しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される時、生活歴など情報読み、把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各々の1日の過ごし方を把握し、個別ケアに努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、評価をしている。その事により、スタッフで話し合い、ケアプラン作成につなげている。	センター方式を活用し、全職員で作成したアセスメントを基に毎月モニタリングを行っています。利用者個々の担当者を中心に、全職員で話し合い情報交換を行い、随時見直され、本人、家族の意向も加えて、介護計画を作成しています。定期見直しは6ヵ月としています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の出来事を伝達し、話し合い実践し、介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々で生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々で利用者様の状況や、意向が変わったりするので、その時々で利用者様に合わせる柔軟な、支援に取り組んでいる。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にあるイベント等になるべく参加出来る様にし、豊かな暮らしを楽しめる様に努めている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時に関しては、本人、家族の意向をしっかりと聞き、かかりつけ医、事業所と連携が出来ている。	協力医療機関が近隣に有り、状況に応じて随時受診出来る体制に有ります。他のかかりつけ医への受診も希望に応じて職員が対応しています。訪問看護師が週1回来訪し、日々の健康管理は適切に行われています。受診結果は家族に報告し、情報を共有しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1の看護師と担当医に相談しながら、適切な受診や看護を受けられる様、支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のソーシャルワーカーと密に連絡を取り合い、安心して治療できる様に病院関係者との情報支援や相談に努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の希望を優先し、家族と話し合いを行い、事業所で出来る事を十分に説明しながら方針を共有している。	医療連携体制に伴う、重度化、終末期の対応指針は整備され、入居時に説明を行い同意を得ています。利用者の重度化が進む中で、家族の希望に沿って段階的に協力医と家族との話し合いが行われ、看取りを経験しています。管理者は職員全員がターミナルケアを習得出来る様に支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発症時に備えて、訓練はしていないが、病院関係者の指示を仰いでいる。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力的体制を築いている	年に2回の避難訓練を重ねて、職員全員で確認し合い行動できるようにしている。	避難訓練は、消防署指導の下に年2回、昼・夜を想定して実施しています。設備点検も定期的実施しています。運営法人は自衛消防隊を編制し、協力的体制を築いています。救急救命訓練も全職員が受けており、備蓄品も確保しています。		更なる取り組みとして火災以外の地震、洪水、台風などの自然災害や停電、断水も想定した訓練を期待します。また、地域住民に参加協力を呼びかけ、具体的な役割についても協議するなど、地域との協力的体制を築く事を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴・排泄など入居者の行動やパターンを把握し、プライバシーを損ねないようないよう声掛けを行っている。	職員は、接遇マナー研修を受けており、日常のケアサービスにおいて、入浴時やトイレ誘導の際の声かけや対応など、利用者一人ひとりの状態に合わせながら、誇りやプライバシーを損ねない支援に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り、本人の思いや希望がかなう様に、又、安全が守られる範囲での自己決定を尊重している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、利用者様のペースに合わせ、希望に沿って支援しているが、ゆっくりと受診などもあり関わる事が出来ない時もある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各々、お洒落が出来る様、支援しているが、中にはお洒落に興味がない方もいるが、本人の自己決定を大切にしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みのメニューを取り入れる様、努め、食事支援は毎日出来る様、支援している。	献立はユニット毎に利用者の嗜好を考慮しながら作成し、定期的に栄養士のチェックを受けています。利用者は力量に応じ、味付け、盛り付け、配膳などを手伝い、職員と共に食卓を囲んでいます。誕生日には、利用者の要望に応え、外食や出前なども取り入れ変化を楽しんでいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の体調や病状に応じた食事量や、水分量がすぐ確認できる様、記載してわかる様になっている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人の力に応じた口腔ケアを支援している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を見て行かれていない時は声を掛け誘導している。トイレで排泄出、気持ち良く生活できる様、支援している。	排泄チェック表で利用者の排泄パターンを把握し、排泄のタイミングや表情、動作を見極めながらトイレへ誘導しています。日中はパットのみで、布パンツ使用者が多く、職員はトイレでの排泄を大切にし、自立に向けた支援に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の食事にブルーヨーグルトを提供している。各々の体力に応じた運動を働きかけている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り、各々のペースで入浴できる様、支援している。ゆず湯にしたり楽しめる様している。	利用者の体調に配慮しながら、週2回以上を目安に入浴支援を行っています。希望があれば毎日入浴出来る体制は整っています。拒む利用者には無理強いせず、シャワー浴や清拭で衛生保持に努めています。浴室は広く、気の合った利用者同士で楽しむ事も有ります。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を把握し、安心して気持ちよく眠れる様、支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が服薬している薬を理解し、体調の変化があった時には主治医に相談している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人、今、出来る事の自立支援に向けて、楽しんで生活出来る様、努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物へ行きたい等の希望時に行ける様に出来る様、努めている。年に何回か正月、お盆に家族と一緒に外出、外泊されている方もいる。	ホームは日常的な外出支援に取り組んでいます。天候や利用者の希望に合わせて、買い物や外食、ドライブなど楽しんでいます。季節に応じた遠出の外出も（市内の祭りや果物狩りなど）支援しています。ウッドデッキでの日向ぼっこや、畑の野菜作りで気分転換を図っています。車椅子利用者の個別対応も検討しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額のお金は持って頂き、買い物出来る様、支援している。大金は事業所で預かり、本人の必要時に都度、お渡ししている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望が有れば、その都度、本人と繋げている。手紙の希望は無く、有れば支援して行く。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	年間行事や季節に合わせて、季節感を出している。利用者様が不快と感じる物は無いが、いつも気に留め居心地良くする事に努めている。	玄関入口は車椅子対応のスロープが設置されています。吹き抜けの塔から光が差す玄関ホール、リビングのウッドデッキへの出入り口は大きな窓で、陽射しが差し込み天井も高く、共有空間全体が明るく開放感に溢れています。壁には行事写真や季節の装飾品が飾られています。不快な臭いも無く、掃除も行き届き清潔感があり、居心地の良い場を整えています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士で自由に楽しくお話しし、すごされている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各々の慣れ親しんで来た物を持ち込み、心地よく生活されている。	各居室にはクローゼットが設置され、カーテン、ベット、台付きのテレビなども用意されています。オシャレな出窓もインテリア空間として工夫して楽しんでいます。利用者は家族と相談しながら、馴染みの家具や整理筆筒、椅子などを持ち込み、手作りの作品や絵、カレンダー、家族写真などを飾り、寛ぎの空間を作り上げています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで安全に出来ている。トイレも居室に近い場所に有り、通所し易い。			